

(宛先)教育指導課長

令和7年5月23日

学校名 玉垣小学校
 学校長名 西村 佳代子

校内研究実施計画書

1. 研究主題及び教科

研究主題	自ら問いをもち、主体的に問題解決に取り組む子どもの育成(初年次) ～ 非認知能力の観点を大切にして ～
教科・領域	生活科・総合的な学習の時間

2. 主題設定の理由

本校は、令和6年度に千代崎中学校区人権教育推進事業研究発表会を行った。そこで、研究主題を“「自分が好き、仲間が好き、玉垣が好き」～仲間づくりや出会い学習を通して～”と設定して、総合的な学習の時間に人権教育の視点を入れた授業づくりに取り組んだ。玉垣に住んでいるからこそ出会うことができる地域の郷材(人やもの)と触れ合うことで豊かな人間性・社会性を育むことができた。

このこともあり、鈴鹿市が重点目標としている非認知能力(主に「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」)をはかる児童アンケートにおいて、玉垣小学校全体の数値が改善された。(表1)

(表1)玉垣小学校 非認知能力 前年度との比較(肯定的回答割合)

	やりぬく力	自制心	自己肯定感	社会性
令和5年度	89.9%	85.4%	83.5%	97.5%
令和6年度	92.1%	87.9%	88.9%	98.4%
差	+2.2%	+2.5%	+5.4%	+0.9%

一方で、研究発表会を通して、次のような課題も見えてきた。

<今後の課題>

- ・ 児童の振り返りをもっと深めるための具体的な質問項目の必要性。
- ・ 積極的に発言しない児童への発言の機会の確保。
- ・ 児童が主体的に学習に取り組むこと。
- ・ 人権教育の視点を取り入れ、児童の共感力や多様性への理解を深めること。

このような課題があることは、「全国学力・学習状況調査」の児童質問紙の結果からも読み取ることができる。(表2)

(表2) 令和6年度 全国学力・学習状況調査 児童質問紙(肯定的回答割合)

	本校	全国との差
(34) 学習した内容について、分かった点やよく分からなかった点を見直し次の学習につなげることができていますか。	77.3%	-3.5%
(35) 授業で学んだことを、次の学習や実生活に結びつけて考えたり、生かしたりすることができると思いますか。	79.8%	-3.9%
(38) 総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか。	70.6%	-10.7%

以上のような課題が本校には見受けられる。また、今後子どもたちが活躍するであろう変化の激しい社会においては、身の回りに生じる様々な問題に立ち向かい、その解決に向けて異なる多様な他者と協働して力を合わせながら、それぞれの状況に応じて最適な解決方法を探り出していく力をもった人材こそ求められている。本校と現代社会の現状を照らし合わせたとき、主体的な学びの実現は研究テーマとしてふさわしいものだと考える。

3. 研究内容および方法

3-1. 主体的な学びの実現に向けた授業プランの作成

・人権教育の視点を取り入れる。

→人権教育目標「差別に気づき、差別を許さない児童の育成」

(1) 互いの違いを認め合い、仲間としてつながろうとする子どもを育てる

(2) 人権感覚を養い、身近な差別や偏見、いじめなどの人権課題に気づき、仲間と共に差別をなくそうと行動する子どもを育てる。

(3) 出会い学習や体験活動を通して、人々の思いや願いに触れ、自分や地域を大切に思う気持ちを育てる。

以上の視点を総合的な学習の時間の授業プランに組み込み、豊かな人間性を育む。

・地域郷材(人やもの)を活用する。

→子どもにとって身近に感じる人やものに目を向け、適切な出会い方をデザインする。

・ICTや考える技法(思考ツール)を活用する。

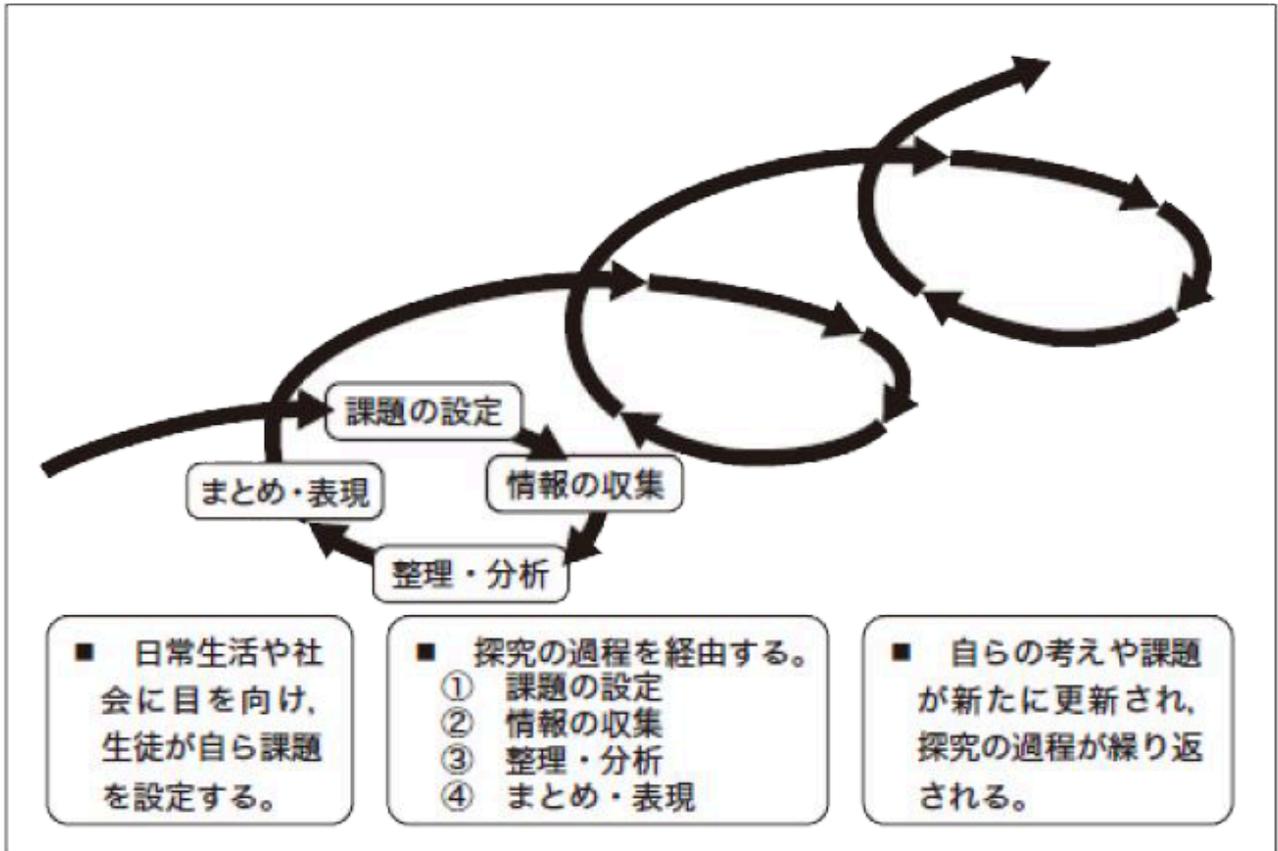
→子どもの学びを促進させるために、効果的に端末活用や思考ツールの活用を行う。

教職員も子どもも活用しやすいような環境整備を行う。

・子どもの問いを大切に授業づくりを行う。

→子ども主体の授業観への転換を図る。総合的な学習の時間では探究のプロセスをベースに授業プランの作成を行う。(表3)

(表3) 探究における子どもの学習の姿



また、総合的な学習の時間だけでなく、全ての教科において「授業力UP5☆ver.2」を活用した全ての子どもたちが主役の授業づくりをめざす。

3-2. 非認知能力の育成

・「非認知能力を知ろう」の授業を学校全体で実践する。

→鈴鹿市教育委員会作成の学習指導案「非認知能力を知ろう」をベースにして、全学年 全クラスで子どもに応じた授業実践を行う。

・共通掲示をする。

→鈴鹿市が重点目標としている非認知能力(主に「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」)のこぼれを掲示して、子どもが意識しやすい環境をつくる。

・ふりかえりの価値づけを行う。

→ふりかえりの記述から非認知能力に結びつく文章を抜粋し、次の授業で紹介する。何気ない子どもの心情を非認知能力に結びつけ、言語化することでメタ認知させる。

また、今年度から、学校で綴り方の研修に取り組んでいる。そこで得た自分の内面を書く力や時系列に沿って書く力がふりかえりに生かされることも期待する。

- ・鈴鹿市版非認知能力アンケートの定期的な実施&分析を行う。
→5月と11月に実施し、数値を一つの指標に子どもたちの姿を捉える。

3-3. 「チーム学校」「チーム担任制」の推進

- ・全クラスで「人のことを大切に想って聴く」を教室に掲示し、全児童へ共通指導する。
→めざす学級集団として、「人のことを大切に想って聴く」を明確な全学級共通の目標とする。
- ・令和6年度より、毎週月曜日を学年会の日を設定。
→月曜日を学年会の日として設定することで、他の会議を避け、学年会の時間を充実させる。
- ・時間割における学年減の時間を充実。
→時間割において、校務分掌減を学年減に多くまわした。このねらいは、学級事務を行うためではなく、学年で授業を見合い、児童理解に努めることをねらいとしている。
- ・学年に一人ずつ特別支援コーディネーターを配置。
→大規模校であり、支援の必要な児童も多く、多様なため、以前は支援会議を企画・運営するのに大変な労力を費やした。また、支援が後手に回ることもあった。学年に1名ずつ特別支援コーディネーターを配置することで、各学級を見回り、困り感(児童・教師ともに)に気づき、いち早い支援体制や、荒れへの未然対応に努める。
- ・定期的なミニ研修会(自主研修会)の実施や学級公開期間の設定
→オープンマインドで学級を閉ざさないことを大切に、教職員の日々の困り感やニーズをキャッチし、課題解決を通じた授業力向上をねらいとしている。
“大きな特別な授業公開”ではなく“小さいいつも通りの学級公開(授業公開)”

4. 年間研究計画

時期	内容
始業式まで	学級開きの作成
4月10日 全体研修会	学級開きの交流 & 「非認知能力を知ろう」の模擬授業
4月中	学級プロフィールの作成 →学級集団づくりの核となるものを考え直し、言語化する。
4月中	非認知能力の具体化およびめざす具体的な子どもの姿の共有
5月中旬	鈴鹿市版非認知能力アンケートの実施&分析 →数値を一つの指標に子どもたちの姿を捉える。
5月21日 職員会議	課題発見シートの記入 →教職員も問いをもち、主体的に研究を進められるようにする。

5月中	「非認知能力を知ろう」の授業を学校全体で実践 「やりぬく力」「自制心」「自己肯定感」「社会性」のことばを掲示
5月中	全国学力・学習状況調査とみえスタディチェックの結果分析
6月9日 研修部会	ふりかえりの記述から非認知能力を価値付ける練習 →非認知能力に結びつきやすい叙述の傾向について分析する。
6月18日 職員会議	非認知能力に結びつきやすい叙述の傾向を還流し、各クラスでの実践を促す。
6月中	教職員の日々の困り感をもとにした自主研修会を開く。 例) 子どもの問いを大切にした授業づくり・指導教諭・情報活用など
7月中	ふりかえりの価値づけ&子どもの問いを大切にした授業づくりの成果と課題を学年ごとにまとめる。
7月24日 全体研修会	チーム学年に分かれて2学期以降の授業プランを作成する。(生活科・総合的な学習の時間) 資料を作成し、指導主事へ送付する。
8月4日 夏季研修会	指導主事より助言を頂いたことを参考に、チーム学年に分かれてカリキュラム・マネジメントを行う。
2学期 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・授業プランを実践する。 全体公開授業を6つ(全学年)行う。 10月1日(水)・11月7日(金)の日程は指導主事招致。 ・定期的なミニ研修会(自主研修会)の実施や学級公開期間の設定 ・鈴鹿市版非認知能力アンケートの実施&分析 →数値を一つの指標に子どもたちの姿を捉える。 ・2学期の実践のリフレクション(成果と課題)をまとめる。 ・年間指導計画を見直して、カリキュラム・マネジメントを行う。
3学期 (予定)	<ul style="list-style-type: none"> ・3学期の実践のリフレクション(成果と課題)をまとめる。 ・初年次の取組を踏まえて、次年度の方向性を決定する。

5. チーム学年

1年部	須川、楫原、藤田、笠井、鈴木、岡田、平井、杉本(あ)
2年部	木滑、山縣、田村、栗本、梅本、前田、高橋、森(ち)
3年部	倉田、吉尾、馬路、田上、大場、加太、青山
4年部	渥美、委文、市川、中村、杉本(な)、森(ふ)、伊集院
5年部	江頭、福濱、小川、久松、土屋、浅川、楠見
6年部	島、藤後、萩原、小野、久保村、永井、千種、内山



2 鈴鹿市で大切にしている4つの非認知能力



やりぬく力

目標に向かって諦めずに頑張ることができる力のこと

夢をかなえられる！

勉強や、よい友達関係に
つながる！

自制心

感情や行動をコントロールすること

自己肯定感

自分を大切に思えること、
自分には良いところがあると思えること

自信がもてる！
前向きに行動できる！

誰かと一緒に取り組む
ときに役立つ！

社会性

困っている人を助けること、協力して活動すること

3